

「防災訓練実施結果報告書」の要旨

1. 趣旨

平成26年7月12日（前回総合訓練実施日の翌日）から平成27年5月28日（今回総合訓練実施日）の間に、当社伊方発電所等で実施した総合訓練および要素訓練について、原子力規制委員会へ報告した。

2. 報告年月日

平成27年 8月 4日

3. 防災訓練実施結果の要旨

(1) 総合訓練（実施年月日：平成27年 5月28日 参加人数：290名）

a. 訓練目的

伊方発電所に新たに設置した緊急時対策所（E L . 3 2 m）において、原子力防災組織が原子力災害発生時に有効に機能することを確認するとともに、原子力施設事態即応センター（松山、高松）における伊方発電所への支援活動および対外対応の習熟を図る。

b. 想定事象

伊方発電所3号機において、一次冷却材漏えい事象の発生により非常用炉心冷却装置を作動させるが、火災を起因として原子炉補機冷却機能が喪失したため非常用炉心冷却装置が作動不能となり原子力災害対策特別措置法第15条事象に至るとともに、一部の安全対策設備が故障により使用できないことにより炉心損傷に至る原子力災害を想定。

c. 訓練項目

防災訓練

災害対策本部の活動について実動訓練を行い、原子力災害の状況把握や伊方発電所と原子力施設事態即応センター（松山、高松）との情報連携を実施。

通報訓練

原子力規制庁への通報連絡および社内関係箇所への情報連絡を実施。また、原子力施設事態即応センター（高松）から他の原子力事業者および原子力緊急事態支援組織への支援要請に係る連絡（模擬）を実施。

AM訓練

アクシデントマネジメントガイドラインを使用した運転上の措置の検討を実施。

緊急時対応訓練

炉心損傷を踏まえた緊急時対応操作について、事態の収束のための実動訓練を実施。

モニタリング訓練

敷地内のモニタリングおよびモニタリングポスト等の監視および情報収集を実施。

避難誘導訓練

発電所敷地内および伊方ビクターズハウス（P R 館）館内の見学者に対する避難誘導を実施。

d . 訓練の評価

シナリオ非提示型の訓練において、原子力防災管理者の指揮のもと各訓練参加者は原子力防災要員として状況判断、対策の検討および意思決定を行い、各役割に応じた適切な活動を実施できており、緊急時対策所（E L . 3 2 m）において原子力防災組織が原子力災害時に有効に機能することを確認した。

また、原子力施設事態即応センター（松山、高松）については、各訓練参加者が伊方発電所への支援および対外対応の活動の習熟を図るとともに、原子力防災組織として有効に機能することを確認した。

（2）要素訓練

a . 訓練項目

通報訓練（実施年月日：平成27年2月16日 参加人数：19名）

原子炉格納容器内における一次冷却材の漏えいの発生を想定したシナリオ非提示型の訓練により、関係箇所への通報連絡を実施。

緊急事態支援組織対応訓練（実施年月日：平成27年2月19日 参加人数：11名）

蒸気発生器への給水機能が喪失するとともに一次冷却材の漏えいが発生し、非常用炉心冷却設備の作動失敗に至る事象を想定したシナリオ提示型の訓練により、緊急事態支援センターへの通報および発電所構内における資機材（ロボット）操作を実施。

b . 訓練の評価

通報訓練

シナリオ非提示型の訓練において、関係箇所への通報連絡が適切に対応できていることを確認した。

緊急事態支援組織対応訓練

災害対策本部（本店）から緊急事態支援センターへの支援要請および、原子力緊急事態支援組織と連携した資機材（ロボット）の操作が適切に実施できていることを確認した。

今後も継続した訓練を行い、対応能力の維持、向上に努めていく。

以 上